

詩文

宮城岳風会

弘道館にて梅花を賞す  
こうどうくわんにてばいかをしょうす

徳川齊昭  
とくがわなりあき

弘道館中』干樹の梅  
こうどうくわんちゆうかんじゆのうめ  
清香』馥郁 十分に開く』  
せいこう』ふよく じゆんぶんにかい

好文』威武無しと 謂わんや  
こうぶん』いぶくなしと いわわんや  
雪裡』春を占む 天下の 魁』  
せつり』はるをうらむ てんかの けい

獄中感あり

西郷南洲

朝に 恩遇を蒙りて 夕に 焚坑せらる  
あしたに おんぐうを もかりて ゆふに ほんこうせらる  
人生の』浮沈 晦明に 似たり』  
じんぜいの』うしん かいめい に にたり

縦い光を回らざるも 葵は日に向う  
たてひかりを めぐるも あおいひにむかう  
若し』運開く無きも 意は誠を 推さん』  
わがし』うんかい なくも いはまことを おしさん

洛陽の 知己 皆鬼と 為り 南嶼の』 俘囚 独り生を 窃む』  
らくやうの ちぎ みな きと なり なんしゆの』 ひしゆう ひとりせいを せむ

生死何ぞ疑わん 天の 附与なるを  
せいしなん うたが てるの ふよなるを  
願わくは』魂魄を留めて 皇城を 護らん』  
ねが わくは』こんぱくを とめて じゆうじやうを まもらん

(願わくは』魂魄を留めて 皇城を 護らん』)  
ねが わくは』こんぱくを とめて じゆうじやうを まもらん

「恋衣」よりの金色の

与謝野晶子

金色の『ちひさき鳥の』かたちして『銀杏ちるなり』夕日の岡に』

金色の『ちひさき鳥の』かたちして『銀杏ちるなり』夕日の岡に』

湘夫人の詠

元好問

木蘭芙蓉』芳洲に満つ 白雲』飛来し北渚に遊ぶ』

千秋万歳』帝郷遠く 雲来たり』雲去りて空しく悠悠』

秋風秋月』沅江を渡り 波上の『寒煙 輕素を引く』

九疑山は 高く』猿夜に啼き 竹枝』声無く 殘露墮つ』

影を慕いて

古賀政男

岩坪秀咆

秋時雨 冷やかなり』我身に 滲みる 人恋いて』巷を彷徨い 幻を追う』

哀切 絶唱』吾心の 唄 想い出の』名曲 今に 絶えぬ』